

菜の花

N H O I B U S U K I M E D I C A L C E N T E R

No. 40
平成30年2月



当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。

たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだとということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。



contents

- | | |
|--|-----------------------|
| P.2 院長あいさつ | P.7 病児保育室“ひなぎく” |
| P.3 新たな春、まだ青き春 | P.8 クリスマスコンサートを開催しました |
| P.4 指宿地域 がん看護研修会報告 | P.9 菜の花マラソン |
| P.5 医科・歯科連携研修会
～認知症のコミュニケーションと口腔ケア～ | P.10 指宿 菜の花通信 |
| P.6 医療安全研修会を開催しました | P.10 外来診療担当医一覧 |

- 1がん診療の治療の向上をめざします。
2成育医療の充実をめざします。
3救急医療の充実をめざします。
4地域医療機関との連携を図り、
説明と同意に基づいた安全で質の高い
医療をめざします。

運営方針

患者さまにやさしく、
地域に信頼される

良質な医療の提供をめざします。

理念



“新春に想う”



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

広報誌“菜の花”を昨年9月から再開し、年3～4回ペースの配信が漸く軌道に乗ってきました。新春号が2月になってしましましたが、遅ればせながら新年の抱負を述べたいと思います。

昨年6月に新病棟が完成し、同時に電子カルテも導入できました。明るく広い病室や手術室そして広々とした廊下、ナースステーションは機能的で動きやすくなり、紙カルテから電子カルテに移行して仕事効率は大幅に向上しました。私たちの指宿医療センターが着実に前進していることを実感できます。また、新しいエレベーターホールで退院する患者さんをスタッフ数人が笑顔で見送る光景こそ、医療従事者として仕事のやりがいを感じる瞬間ではないでしょうか。常に患者さんやご家族の気持ちに寄り添った医療を提供し、患者さんが我々に求めていることは何かをいつも考え、医療の質をさらに向上させることで地域住民に慕われる医療センターに成長させましょう。

しかし、医療現場では理想と現実の乖離がつきものです。入院患者さんの中には認知症の高齢者も増え、数人の患者さんが夜間せん妄状態になり、夜勤ナースがてんてこ舞いだったとの報告を時々受けます。また、救急患者さんが連続して入院してくる緊迫した状況では、患者さんの気持ちに寄り添う余裕がなくなる場面も出てきます。迅速かつ適切な医療行為が求められる救急医療の現場では、常に医師不足やスタッフ不足の問題に直面しているにも関わらず、一方では“働き方改革”を実施するために今より多くの人材が必要になってき

ます。そもそも現在の医療行政システムでは、地域救急医療を担う当院のような中小規模病院の経営はかなり厳しい状況にあります。“地域に役立つ病院”という理想に向かって今年も邁進する所存ですが、この理想と現実の乖離をどのように解決すべきか難題が山積みです。

さて、今年は明治維新150周年を迎え、大河ドラマ“西郷どん”も始まり毎週楽しみに觀ています。何故、清国のように日本が欧米列強の植民地支配を受けなかったのか、以前から興味があり明治維新の立役者の西郷さんについて薩摩人としてもっと知るべきとの思いから、林 真理子さんの原作と粒山 樹さんの“維新を創った男 西郷隆盛の実像”を読んでみました。大河ドラマは原作をかなり脚色しているようですが、粒山さんの本では西郷像を史実に基づいて紹介しています。やはり明治維新というのは想像を絶する激変の時代であり、その様な時世にあっても人を大切に思う西郷さんの熱い心が近代日本の礎を築いたとも言えます。私たちが西郷さんのように“敬天愛人”を貫くことは容易なことではありませんが、医療従事者として志を高く持ち、医療現場の多くの矛盾を乗り越えてゆく力と勇気を西郷さんから学びたいものです。

新たな春、まだ青き春

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

平成29年は当指宿医療センターの新病棟

運用開始の年でした。時をほぼ同じくして電子カルテが導入され、さらに8月には新院長の就任……と、当院にとっては激動の年になりました。生まれかわった当院は現在、生後およそ半年の乳児。ちょうど寝返りを始め、お座りができるようになる頃です。

未熟であることを言い訳にするつもりはありません。むしろ、フレッシュな脳細胞でたくさんの新たな知識を吸収し、元気な身体でさまざまな技術を習得する大きなチャンスだと思っています。経営、接遇、診療の質等々、解決すべき課題は山積していますが、立ち止まらず、前を向いて歩くことこそが若さの証だと思います。成長と進歩が今年のキーワードになるでしょう。



統括診療部長
相星 壮吾

成長と進歩を妨げるのは、いわゆる「やらされ仕事」、そして「やっつけ仕事」です。成長と進歩を促すのは「自ら考え、自ら行動すること」です。職員一人ひとりが患者様のため、地域のため、組織のためにできることを自ら考え、自ら行動できるような環境づくりを進めます。具体的なテーマを設定した勉強会、研修会や組織内外における話し合いの場が必要になると 생각ています。

まだ青き春を疾駆し、朱夏から白秋へと成熟していくことができるよう、日々努力し、精進を重ねていく所存ですので、ご支援をよろしくお願ひいたします。

指宿地域 がん看護研修会報告



教育担当師長 國生 道代

平成 29 年 12 月 3 日（日）に北海道医療大学名誉教授 石垣靖子先生をお迎えし、鹿児島がん看護研究会、看護と介護多職種協議会との共催により、指宿地域がん看護研修会「地域でその人らしく生きることを支える」を開催しました。今回、看護管理、倫理、緩和ケアの第一人者として、全国でご活躍をされている石垣先生の貴重なご講演であり、院外より保健所や包括支援センター、地域の医療機関・介護施設等の 17 施設より多数の参加がありました。

長年、看護師として歩み続けた石垣先生のこれまでの体験とともに、先生の語りに引き込まれながら多くの方がうなずき、時に涙を浮かべ、聞き入る様子が伺えました。講演では、看護の本質的な役割と責任において、「私たち看護師はそれぞれに異なる人たちの生活（くらし）の営みを整えるという本質的な役割がある」ことを述べられ、それは、「患者一人ひとりの物語られるいのち（生活・人生）を尊重することから成り立つ」と言われました。また、「その人の見ているもの、感じていること、体験していることを他者がわかることはできないが、分かろうと接してくれることを患者は望んでいる。病む人は、この『私』に耳を傾け、『同伴者になってほしい』と願っている思いに寄り添い、傍らにいようとするケアを実践してほしい。相手と『同じ方向を見ようとする』、相手の『見ているものを見ようとする』私たち医療者は、幸いにも患者との同伴者となり、その手助けができる立場にあります。」と話され、その姿勢を常に持ち続けたいと感じました。

今回の講演から、日々の医療の現場において見失ってはいけない看護の本質に気づき、自身の体験を振り返る機会となりました。そして、最後に、石垣先生より「看護師として誇りを持って仕事をしなさい。頑張りなさい。」と優しく、そして力強いお言葉を頂きました。心熱くなり、看護の原点に立ち戻ることが出来た貴重な研修でした。



医科・歯科連携研修会

～認知症のコミュニケーションと口腔ケア～

4 病棟看護師長 藤本 信子

12月22日、熊本県歯科医師会の松岡卓治先生を講師に「認知症のコミュニケーションと口腔ケア」というテーマで講演会を行いました。院外から58名、院内から29名、計87名の参加がありました。また、看護師、歯科医師、歯科衛生士だけでなく、MSW、リハビリ、ケアマネージャー、療養介護と幅広い職種の参加がありました。口腔ケアについて他職種が連携し、取り組んでいることを実感しました。



近年の話題として、オーラルフレイル（高齢になって口腔の筋肉や活力が衰え、歯、口の機能が虚弱になること）への対策が全身的な虚弱の予防となると話されていました。口腔ケアは、誤嚥の予防・改善だけでなく、高齢者のADL（日常生活動作）やQOL（生活の質）の向上につながるとのことです。また口の中を観察することは、相手のプライベートな領域に入る行為であり、ステップ1として、出会いの準備、ノックをすることが大切であると話されていたのが印象に残りました。日々行っている口腔ケアですが、その重要性と、患者さんとのコミュニケーションの在り方について考えさせられる時間でした。学んだことを、一つでも多く実践に活かしていきたいと思います。



医療安全研修会を開催しました

医療安全管理係長 古川 園恵

平成30年1月25日、弁護士である本多剛先生においていただき、「病院における麻薬の取扱い～麻薬及び向精神薬取締法～」についての医療安全研修会を開催しました。

病院では手術や治療、緩和ケアの目的で医療用麻薬を多く使用します。麻薬はその性質から厳重な管理が必要とされており、保管や取扱い時の取り決めが多くあります。取扱いの根拠となっている法律を再度学び、厳重な管理が必要とされる理由を理解し、日頃の業務に活用できるよう今回は弁護士の先生に講演をお願いしました。



麻薬は「麻薬及び向精神薬取締法」という法律により取扱いが定められています。この法律の内容をもとに、主に病院での取扱いについて話され、その後Q&Aの形式で内容の確認をされました。自分達が行っていることの根拠を理解することができ、また、薬剤科での取扱の実際についての説明もあり、研修後のアンケートでは、多くの職員が、理解できた、今後に活用できると回答していました。

安全な医療を提供し、患者さんや家族の方が安心して療養できるよう、今後も現場に即した講演会を企画していきたいと思います。





病児保育室“ひなぎく”

看護部長 槙松 由美子

新病棟に移転した昨年6月から、指宿市の病児保育事業に参入することになりました。

開設に当たっては、病児保育室としての旧病棟の改装や設備・備品等の整備、保育士の採用と教育、マニュアルの整備等様々な事柄の準備が必要でした。保育室については、指宿市からの一部補助もあり、感染症室含め2室が4月に完成しました。保育士さんも時間はかかりましたが、5月には定数の3名、意欲的な保育士さん達に来て頂くことができました。保育士さん不足のこの時期に大変幸運だったと思います。



所属は看護部となりました。受入には、保育士だけでなく、小児科医師、小児外来・病棟看護師、外来総合受付、会計窓口等が関わります。何回か話し合いを重ね、受入体制を整えました。同時に保育士への症状別対応方法、感染予防・感染対策の教育を感染管理認定看護師や医療安全管理係長の協力も貰いながら行いました。保育士さん達もマニュアルの整備や、室内の装飾、書類の準備等積極的に動いてくれました。そして6月“病児保育室 ひなぎく”の開設となりました。

開設して7ヶ月。定員6名のところ、利用者は思うように増えませんが、外来での受入、病棟看護師のサポート、支払時の医事との連携もスムーズに行くようになりました。保育士さんの病児への対応もだいぶ自信がついてきたように感じます。利用者が固定されてきた感がありますが、行政の協力も得ながら、地域事業所への広報活動をさらに広げたいと思います。

「今日はどうしても仕事を休めないんです。」と急いで出勤する母親や、帰り際「また利用させて下さい。」と言う母親の話を聞くと、地域の母子のために少しは役立っていると感じます。課題はありますが、当院だからできることで、これからも地域に役立つ病院でありたいと考えています。



おもちゃ



部屋



抱っこ



クリスマスコンサートを開催しました

経営企画係長 入江 遼太

平成29年12月15日(金)、当院リハビリ室におきましてクリスマスコンサートを開催致しました。今回のコンサートには、やしの実保育園の園児の皆さん、中学生バイオリニストのパスカル鳳空さん、そしてメインイベントとしてオペラ歌手の瀬戸口浩さん、美希代さんご夫妻と、ピアニストの柳寿枝さんにご出演頂きました。



恋ダンスを披露した園児のみなさん



中学生バイオリニスト パスカル鳳空さん



本格的なオペラから馴染みの深い童謡まで、
素晴らしいステージを披露してくださった瀬戸口さんご夫妻と柳さん。



菜の花マラソン

庶務班長 時見 信一郎

平成30年1月14日(日)に指宿市にて第37回いぶすき菜の花マラソンが開催されました。一年で最も早く開催される公認コースの市民マラソンです。アップダウンの連続するハードなコースにも関わらず、制限時間が8時間でビギナーでも完走を狙える大会で、今回も1万3千人を超えるランナーが参加しました。

当院の私設エイドは山川港からのなだらかな上り坂(心臓破りの坂)を上り切った35km地点にあります。先頭グループで記録を狙うランナーは見向きもしませんが、その他大勢の大会を楽しんでいるほとんどのランナーは私設エイドに立ち寄るので、スタッフもフル回転の働きで給水準備をする状況でした。それでも私設エイドのスタッフは頑張っているランナーから勇気をもらい、一層応援に力が入りました。



指宿 菜の花通信

No.104



総合診療内科医師 中村一彦

田舎医者の流儀 (79) · · · 春愁

指宿医療センターの病棟からは眼下に穏やかな錦江湾と大隅半島の山々がよく見え、癒されるオーシャンビューである。日の出は対岸、大隅半島の山の上に出て真正面に見える、見事なものだ。先日は日の出前に、内之浦から打ち上げられたロケット（イプシロン3号）がよく見えた。炎のような尾を引いて飛び立っていった。打ち上げは成功し、小型ロケット、高性能、低価格で意義深い成功なのだろう。その後、オーロラのような夜光雲が各地で見られ、ニュースになった。日本のロケット屋さん達がいつまでも、人々の幸せのために仕事出来ることを願いたい。



今年も多くの年賀状を頂いた、年一回の消息でも嬉しい。同級生のK君はゴルフの名手だが、この歳になつてもまだ70台でまわっているという。90を切るのも少なくなった我が方としたら羨ましいかぎりだ。しかし、当方とてまだまだ発展途上（！）、練習すると良くなるかもと妄想を持ったりする。今年の年賀状には「元気にしていますか」という問い合わせが多かった。昨年3月で殆どの公職を退いて「隠居」したので、いろんな場面で名前の出ることが少なくなった所為であろう。

「春愁や老医に患者なき日あり」（播水）（神戸で内科を開業している医師の句という）

この句に作家五木寛之は「若い頃どこかの大病院の院長として活躍され、名医とたわめられた医師がいる。退職後まだまだ人の役に立ちたいと自宅に診療所を開かれた。日々、あのおばあちゃんはどうしているだろう、あの子の体調はどうかと考えて、過ごしているうちに、やがて年月がたち、老いもさらに深まってきた。ある日いつものように白衣を着て診察室で待っているけれどどういうわけか患者さんが誰も来ない。そのうち、こういう日が続いて、いつか誰ひとり訪れる人がいないときが来るんだろうなと思しながら窓の外を見ると桜がちらほら散り始めている。やわらかい陽ざしの中でぼうっとしながら老医師がしみじみと来し方行く末を考えている風景」、こんな情景をイメージするという。（孤独のすすめ 五木寛之 中公新書ラクレ）

我が身にも、形は違ってもそう遠くないうちに、そんな日が訪れるだろう、心穏やかにその日を迎えるものだ。それまで、今まで忙しさにまけて、足りなかった部分を補いながら診察を続けられたらいいなと思う。患者さんが言いたい事、聞きたい事を全部話して、心地良い気持ちで帰ってもらえた嬉しい。リップサービスだとしても、今日は「先生に会えて良かった」と言ってもらえたままで喜びたい。心が通じあう患者さんとの交流が「あいのぼ」のエネルギーとなってくれたら、もう少し働けるか。ただそうは言っても、診察は怜俐に科学的な側面がある、そこをないがしろには出来ない。医者としての矜持を持ち続けないといけないと自戒する。

外来診療担当医一覧

平成30年2月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器科	午前	鹿島	南	鹿島	川畠 南/園田	鹿島 南	
総合診療内科	午前	園田	花田	中村	花田	中村	
精神科	午前	(休診)	(休診)	(休診)	(休診)	(休診)	
消化器科	午前	小野	千堂	大重	小野	大重堂	
小児科	午前	相星	荒武 相星	相星	相星	荒武 相星	火曜日の相星医師は受付が9時30分までとなります。 金曜日の相星医師は再診のみ診察となります。
小児科	午後	外来 予防接種 健診	閑	閑	閑	閑	午後診療受付 14時～16時 月曜・火曜・水曜・木曜・金曜日は午後診療受付 15時～16時 1ヶ月健診（毎週月曜・金曜日：要予約）受付 14時～14時30分 予防接種（毎週月曜・水曜・金曜日：要予約）受付 13時30分～14時30分
外科	午前	(手術日)	宮原 菌口	宮原 菌口	(手術日)	宮原 菌口	金曜は予約患者のみの診察となります。
泌尿器科	午前	水間田	(手術日)	水間田	水間田	水間田	火曜日は手術日のため休診となります。
産婦人科	午前	恒松塚	恒松塚	(手術日)	恒松塚	恒松塚	1ヶ月月健診（月曜・金曜日：要予約）診療受付 14時～
産婦人科	午後	恒松塚	恒松塚 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	恒松塚	恒松塚	午後診療受付（水曜日以外）14時～15時（再診のみ） 母乳外来（毎週火曜・木曜日） 母親学級（毎月第2・3水曜日）
眼科	午前	尾辻	尾辻	尾辻	尾辻	尾辻	月曜・火曜・水曜日は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。 木曜・金曜の午後は特殊外来（視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など）
専門外来	午後	呼吸器内科		呼吸器外科		呼吸器内科 もの忘れ外来	毎週月曜日 予約制 毎週水曜日 予約制（14時～16時） 毎週金曜日 予約制（14時～16時）
専門外来			遺伝カウンセリング		小児循環器	呼吸器外科 小児循環器 毎月第2・4木曜日 予約制（午前診療のみ） 小児慢性疾患 毎週月曜・水曜・木曜日 予約制（14時～16時） 遺伝カウンセリング外来 原則火曜・木曜日（要予約15時～16時）	
内視鏡検査	大重堂	大重堂 小坂井	小野千堂 坂井	藤井大重堂	赤崎小野		火曜日と水曜日の坂井技師の検査は、10時から行います。 木曜日の千堂先生の検査は、第2と第4の週に行います。
緩和ケア外来			要予約				随時予約受付

○受付時間 午前8時30分～午前11時00分

○診療時間 午前8時30分～午後17時15分

○休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。

○電話番号 0993-22-2231

面会時間 平日は午後2時から8時まで

土曜・日曜及び祝祭日は

午前11時から午後8時まで

発行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター

〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町 4145番地

TEL：0993-22-2231（代表）

FAX：0993-22-2772（地域医療連携室）

URL：http://ibusukimc.jp/

印刷：陽文社印刷株式会社